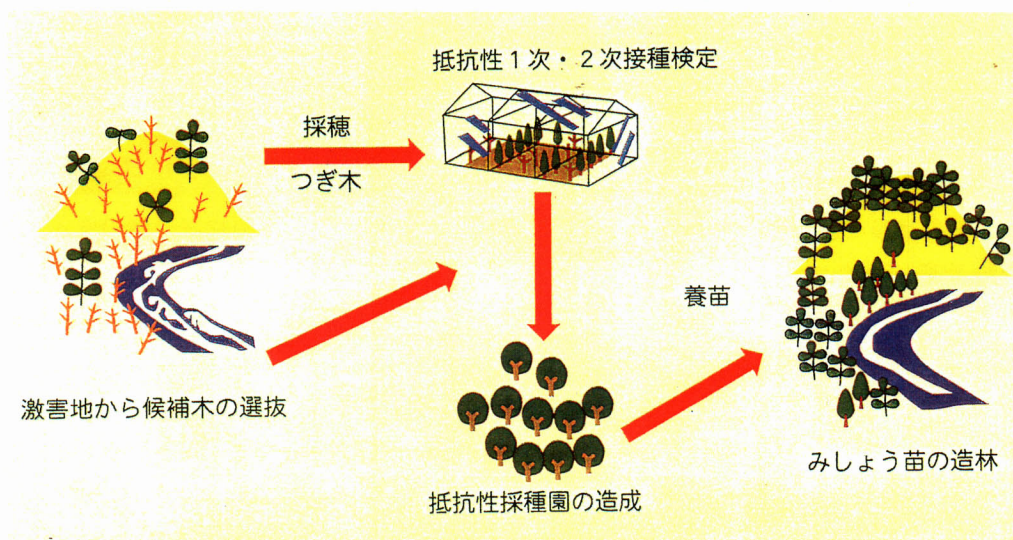


マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業

マツノザイセンチュウにより甚大な被害を受けた森林の中から、健全に生き残っているアカマツやクロマツを候補木として選び出し、接ぎ木で苗木を増やし、人為的にマツノザイセンチュウを接種して抵抗性があるか否かを調べます。調査の結果抵抗性を持つ木があれば、種子を採るための採種園を造成し、苗木を育て、被害を受けた森林に植林し、松林をよみがえらせることができます。



マツノザイセンチュウ抵抗性育種の進め方

林業試験場



マツノザイセンチュウの激害林から選抜された抵抗性候補木



マツノザイセンチュウを接種して抵抗性の検定を行います。



接種後8週間を経過すると抵抗性のないマツは枯れてしまいます。

全国的にも抵抗性確定率は、僅かに0.41%であり、選抜は難しいのですが、本県ではこれまでに抵抗性候補木としてアカマツ145本、クロマツ88本を選抜し、そのクローン苗にマツノザイセンチュウを接種して、アカマツ5本が一次検定に合格しています。(残念ながら二次検定にはクローン個体数の不足などから到達していませんが、現在は接ぎ木技術の克服などにより試験が順調に運ぶようになりましたので、その結果に期待をしています。)